

ユニセフ「日本型CFCモデル検証作業」 奈良市 完了報告

令和3年2月16日 (火)
発表者：奈良市長 仲川 げん



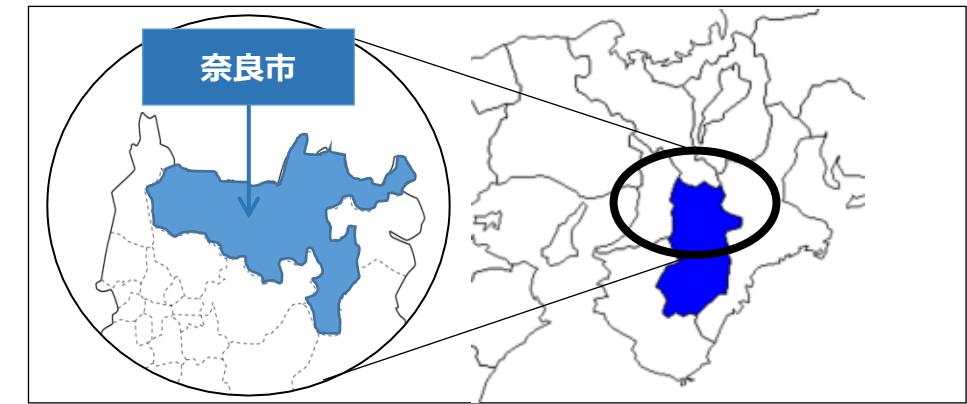
1. 奈良市の概要

奈良市の魅力・特徴

すべての子どもが今を幸せに生き、夢と希望を持って成長することができるまち なら

- ▶面積：276.84km²（県内3番目の広さ）
- ▶人口：354,878人（R2.12.1現在）
- ▶平成14年4月1日に全国で29番目の中核市となりました。

奈良県の北端に位置。多くの文化遺産に囲まれ、**市街地から農山村まで様々な特徴を持つ観光都市**。現在、リニア中央新幹線の新駅誘致活動を展開中。新駅が完成すれば、東京まで約60分。

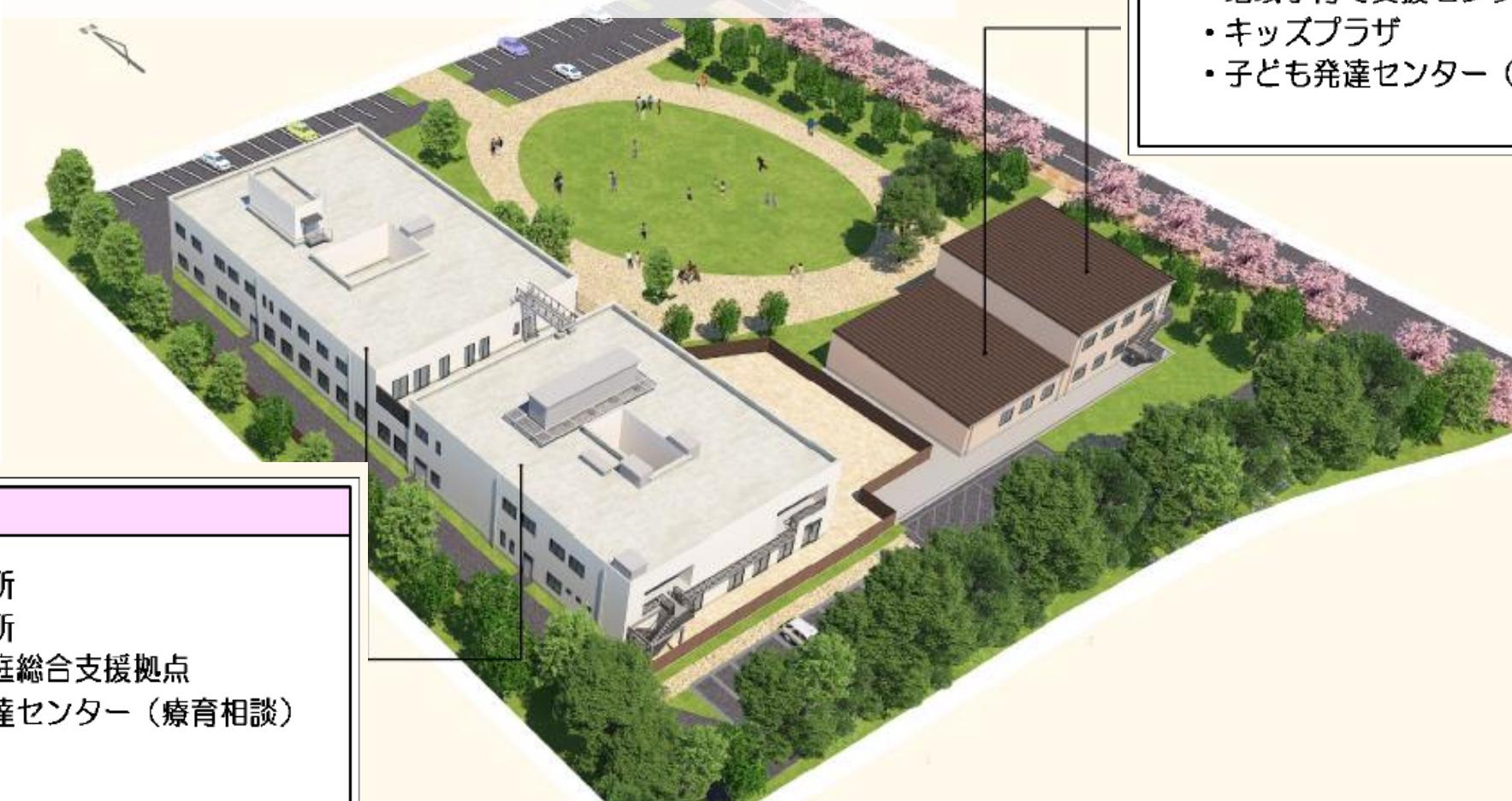


1. 奈良市の概要

最近の取り組み

(仮称) 奈良市子どもセンターの設置準備

子育てを行う人が気軽に訪れられる総合的な子育て支援施設



1. 奈良市の概要

最近の取り組み（令和2年度）

つなげる乳児おむつ宅配事業

つなげる乳児おむつ宅配事業のご案内



奈良市では、子育て支援の一環として、10代で出産された家庭や多胎児（双子や三つ子など）を出産された家庭に対し、訪問員が乳児用おむつをお届けします。



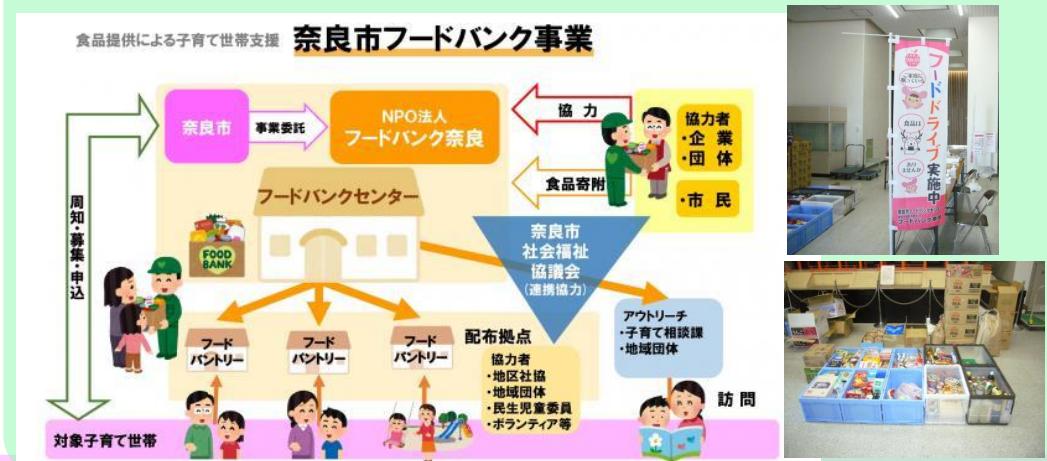
奈良市在住で次にあてはまる令和2年4月1日以降に生まれた乳児のいる家庭

- ①対象乳児を10代で出産された家庭
- ②対象乳児が多胎児（双子や三つ子など）である家庭



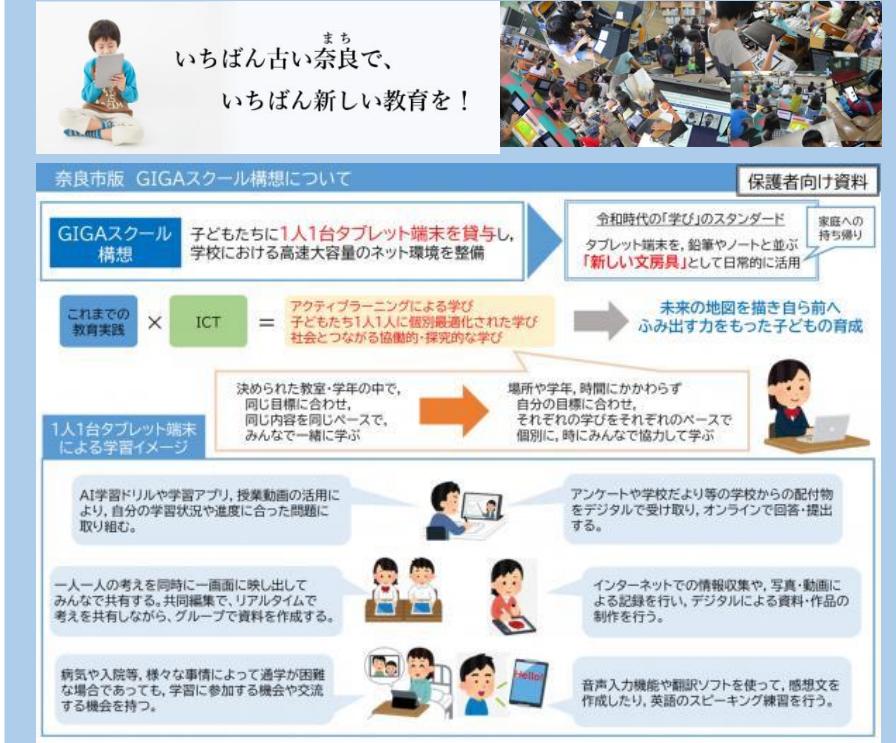
子育て支援の一環として、10代で出産された家庭や多胎児（双子や三つ子など）を出産された家庭に対し、訪問員が乳児用おむつをお届けします。

奈良市フードバンク事業



様々な理由で市場に流通できない食品を企業や個人から寄付していただき、新型コロナウイルス感染症拡大によって社会的・経済的影响を受けやすいひとり親家庭や、子育てをしている生活困窮家庭に無償で提供します。

奈良市版GIGAスクール構想



令和2年9月29日に全市立小・中学校へのタブレット端末の配備が完了しました。準備が整った学校から順次、児童・生徒への貸出を行い、学習活動の多くの場面で利用しています。

2. 子どもにやさしいまちづくりに関する取り組み

①奈良市子どもにやさしいまちづくり条例 (平成27年4月施行)

奈良市の子どもたちが今を幸せに生きることができ、将来に夢と希望をもって成長していくようになり、子ども参加によって大人とともにまちづくりを進めることを目的にして平成27年4月に施行。

奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の特徴

- ・子どもの声を聴くため、施行まで3年間をかけて検討
- ・条例の名称にユニセフでも提唱されている「子どもにやさしいまち」を取り入れている
- ・子どもが意見表明をし、参加する場として「奈良市子ども会議」の設置を掲げている
- ・子ども・子育て支援法第61条に基づいて策定している奈良市子ども・子育て支援事業計画に条例の理念を反映している
(すべての子どもが今を幸せに生き、夢と希望を持って成長するこができるまちなら)



2. 子どもにやさしいまちづくりに関する取り組み

②奈良市**子ども会議**の設置・運営

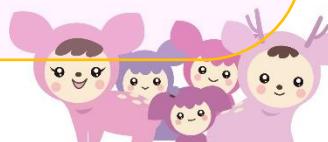
子どもの意見表明や参加を支援するための取り組み（条例12条に明記）。会議に参加する子どもたちが子どもにやさしいまちづくり等について話し合い、出された意見をまとめ、市長・教育長へ提出。提出された意見に対して、奈良市としての回答を作成し公表。

平成27年度から毎年度開催。今年度で6回目。



奈良市子ども会議の特徴

- ・子どもたちが単に要望を上げるだけでなく、提案実現のために「自分たちは何ができるのか」についても、子どもたち自身で考え、提案の実施につなげる。
→ 単なる要望の場になることを防ぎ、子どもたちが主体となってまちづくりに参画する。
- ・テーマを検討する段階から関係課を巻き込み、市役所全体で子どもの意見表明を支援。
→ 意見書を手渡すだけの単なるセレモニーになることを防ぎ、子どもたちの提案を実現するための府内体制を構築する。



2. 子どもにやさしいまちづくりに関する取り組み

奈良市子ども会議の流れ

5回目の開催となった令和元年度奈良市子ども会議では、22人の子どもたちが参加し、「2020年オリンピックに向けて奈良市に訪れる人にもやさしいまちとは？」をテーマに議論し、意見書を提出しました。

テーマについて思ったことを話しあおう！



市の実際の担当者に質問をぶつけて、理解を深めよう!!



意見書づくりスタート!!
自分たちは何ができるかな!?



意見書を市長・教育長に提出!



提案した意見を子どもたち自身で実現するため、実際の現場で子ども達が準備を始めます。



市の幹部に子どもたちが考えた意見を伝えます！



2. 子どもにやさしいまちづくりに関する取り組み

奈良市子ども会議からの提案の実現に向けて

「公園で球技がしたい！」など、遊び場に関する意見が幾度となく出ていました。平成30年度に遊び場をテーマに子ども会議を開催し、子どもたちが公園の再生計画を奈良市に提案。これもとに翌年の市主催の公園を使用したイベント「まちの食卓」に、子ども会議の意見を取り入れました。来年度には市内公園全体の活用方法や整備計画の方向性を示した計画を策定する予定です。

H30年度



子ども会議 テーマ「子どもの遊び場」

- ・シンボル遊具が欲しい！
- ・ベビーカーや車いすの人も通れるようにする
- ・トイレや駐輪場が必要
- ・屋台などが出るイベントでにぎわいを！

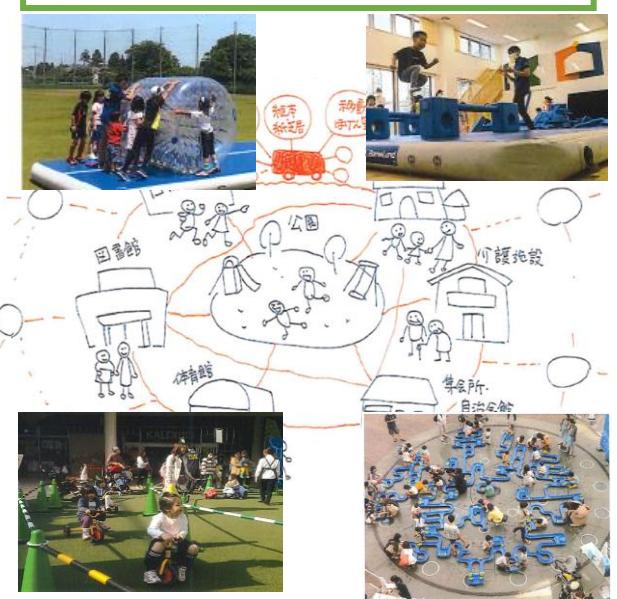
R元年度～



社会実験イベント「まちの食卓」

- ・4、6、9、11月に公園でにぎわい創出のためのイベント実施
- ・仮設トイレや仮設の遊具を設置
- ・キッチンカーも参加

R3年度～（予定）



公園マネジメント基本計画策定へ

- ・公園の有効活用
- ・地域の実情に応じた利用方法
- ・公園の管理方法…等の方針を示す
- ・子どもセンターへ屋外広場を設置

2. 子どもにやさしいまちづくりに関する取り組み

令和2年度奈良市子ども会議（令和2年12月24日・28日 オンラインで開催）

今年度は令和元年度に提案された内容を子どもたち自身で実現していく予定でしたが、コロナウィルス感染症拡大のため内容を変更し、オンラインで開催。自宅や学校から参加した30名の子どもたちに、令和3年度の提案実施に向けて、どのような形であればコロナ禍で奈良市の「新しいおもてなし」ができるのか提案をしてもらいました。



3. 日本国CFCモデルの検証

検証作業の概要

検証範囲：奈良市市長部局・教育委員会の全部署

検証期間：令和2年7月31日～8月14日（2W）

検証方法：①CFCモデル構成要素チェックリストを奈良市仕様に編集。
②チェックリストを全庁に展開。
③チェック項目に沿って、各部署で該当する事業・計画・取り組みの有無を確認。
④該当するものがあった場合は、現状評価を実施。
⑤検証作業の実施に伴う課題・意見を募集。

子ども・子育て支援事業計画の114事業の事業評価と併せて実施



3. 日本国CFCモデルの検証

検証結果

構成要素	チェック項目数	奈良市の現状評価				◎、○の割合
		◎ (整備済み)	○ (整備進行中)	△ (実施する意向がある)	— (現時点では実施の意向がない)	
1 子どもの参画	7	5	2	0	0	100%
2 子どもにやさしい法的枠組み	5	5	0	0	0	100%
3 子どもの人権を保障する施策	9	9	0	0	0	100%
4 子どもの人権部門または調整機構	3	3	0	0	0	100%
5 子どもへの影響評価	6	5	0	0	1	83%
6 子どもに関する予算	4	2	0	0	2	50%
7 子ども報告書の定期的発行	3	1	0	0	2	33%
8 子どもの人権の広報	5	2	0	0	3	40%
9 子どものための独立したアドボカシー	4	3	0	0	1	75%
10 (奈良市独自項目) 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の運用	3	3	0	0	0	100%
合計	49	38	2	0	9	82%

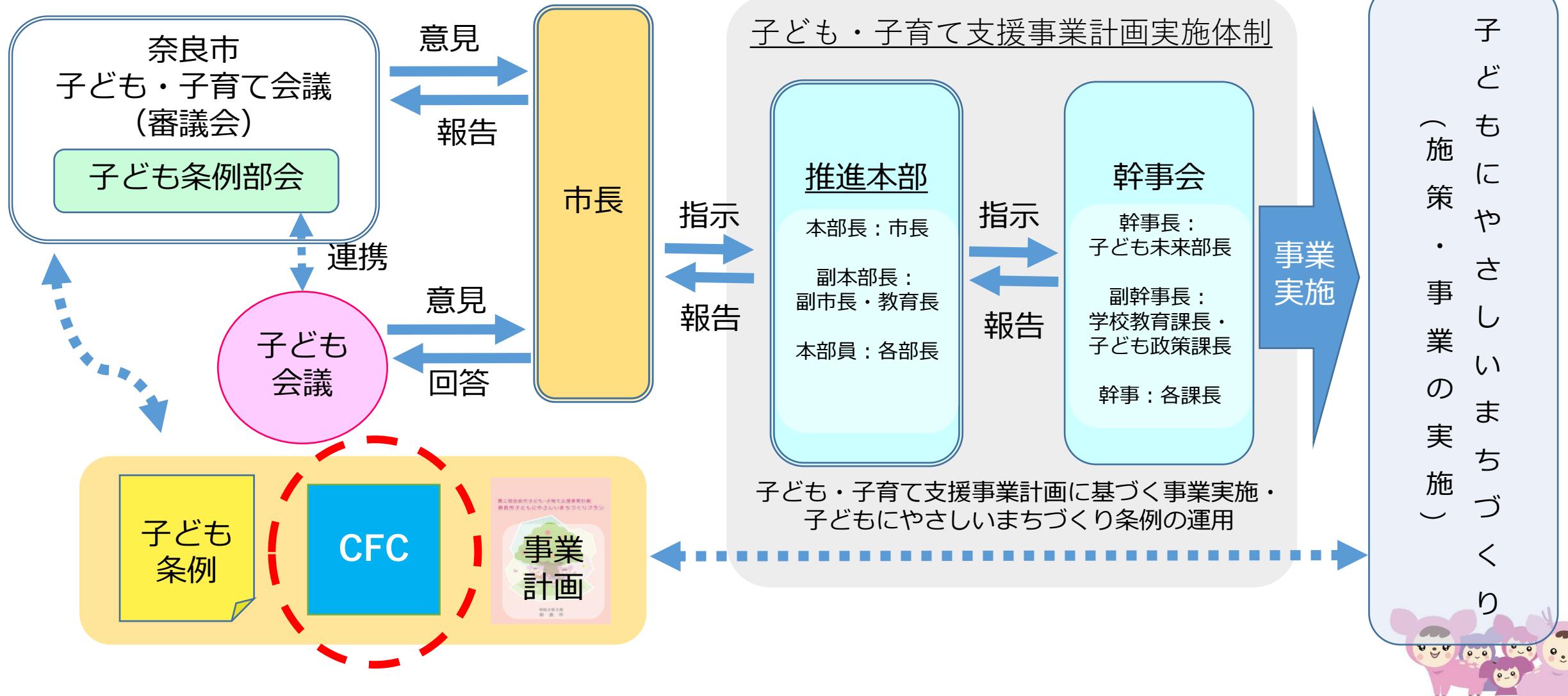
該当する事業があった部署：

子ども政策課を含む子ども未来部の他、母子保健担当部門、人権政策担当部門、教育委員会、市全体の政策を管轄する総合政策部門などの事業が◎、○に該当。



3. 日本国型CFCモデルの検証

子どもにやさしいまちづくり庁内連携体制 (奈良市子ども・子育て支援推進本部)



3. 日本国CFCモデルの検証

構成要素10項目

本市では、平成27年に子どもにやさしいまちづくり条例を制定し、本条例に基づき奈良市子ども会議を設置・運営しているが、市行政への子どもたちの参画など、子どもにやさしいまちづくりの取り組みは、今後も継続・発展させていく必要があるため「奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の運用」として構成要素10項目とする。

【構成要素10. 奈良市子どもにやさしいまちづくり条例の運用】

- ①奈良市とともに子どもたち自らが、子どもにやさしいまちづくりを実践するための取り組みがなされているか？
- ②奈良市が子どもにやさしいまちづくりを推進していること、およびその活動に参加出来ることを子どもたちが認知するための取組みがなされているか？
- ③それらの仕組みや取り組みは行政において具体的な計画が策定され、定期的な評価を行い必要に応じて改善がなされているか？



4. 今後の展望

- ・CFCモデルを活用し、子どもにやさしいまちづくりをさらに推進
- ・どのような状況下でも、子どもたちの権利を守る取り組みの継続
- ・子どもたちの意見を、子どもたち自身で実現するための体制を構築



すべての子どもが今を幸せに生き、
夢と希望を持って成長することができまちなら

